
花火

chisa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花火

【Nコード】

N3629T

【作者名】

chisa

【あらすじ】

2011 5/29 chisa

風鈴の音が告げた

風の往来を

夜空に咲く花火が残した

余韻を吹き消そうと

縁側の木の肌触り

足元の砂利の感触

遠くで聞こえる河のせせらぎに

乗るようにして聞こえる虫の鳴き声

隣にいた君はいつのまにかいない

ずっと遠くに見える道の向こうに

ここからは届かない花火に

君なら届きそうなほど

私からは遠くに

夏に盛りと伸びきった草を掻き分けて

辿りついたのは河のせせらぎでも

虫の鳴き声でもない

振り返ると花火が夜空に映えていた

いつのまに通り過ぎたのかも分からず

首をかしげてまた戻っても

同じようにしてまた通り過ぎている

花火が打ち鳴らす音が

山にはねかえってまた戻ってくる

じりじりと最後の音だけがどこにもゆかず
この耳に残る

去年はこの花火を見ながら

その音にまぎれるようにして

二人手を繋いだけれど

君は花火のきれいさに目を奪われていた？

私は早くこの花火が終わって

君だけがいる世界に行きたかった

最後の一発の花火は合図

その瞬間に夢はさめる

それでも しがみついてでも

その余韻に揺られていたい

だから 風鈴よ 鳴かないで

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3629t/>

花火

2011年10月8日03時13分発行